



# 農

# に生きる

～Challenge to my Dreams～

シキミ生産者

かわしま  
のりあき  
川島道亮さん (40)

埼玉県出身。富士市一色に在住。会社員から転身し新規就農。2年間の研修後、平成30年に就農し5年目。同市今宮でシキミを80アール栽培するほか、落花生やシヨウガも栽培。JAふじ伊豆富士地区しきみ部会に所属。



杉山営農アドバイザーと意見交換する川島さん(左)



色が濃く艶のある富士のシキミ

一年ごとに植え替え手間をかける

自ら作ったものが商品になる

農業にやりがいと

魅力を感じる

### 会社員から「農業」の道へ

埼玉県のサラリーマン家庭で育った川島道亮さんは国立大学農学部を卒業後、奥様とともに富士市に移り、製紙会社に就職しました。学生の頃から生物に興味があり、大学でも農業系サークルに入って野菜を作っていたという川島さん。徹夜続きの会社員生活の中で「農作物を一から作ってみたい!」という思いが強く

なり、33歳の時に奥様の後押しもあって農業の道に進むことを決断しました。

### 手間暇かけて高品質なシキミを栽培

新規就農の相談で県農林事務所を訪問。「年間を通して需要があり、収入が安定している」と富士のシキミを紹介され、2年間の研修を経て、35歳で独立就農しました。

富士のシキミは種まきから出荷まで3年かけ、1年ごとに違う畑に植え替えます。わざとストレスを与え、枝が上に伸びすぎないようにするほか、芽摘みや土壌作り、病害虫防除や草取りなど手間暇かけてボリュームと艶のある美しいシキミに仕上げます。

「肉体的には大変だが、やりがいがある。自分の作ったものが商品として人の手に届

くことに喜びを感じる」と笑顔で語ります。

### 仲間との出会い先輩たちに感謝

川島さんは就農と同時に富士地区しきみ部会に入会。「栽培のアドバイスや機械を譲ってもらったりなど、部会の先輩方にはいつも助けてもらっている。分からないことばかりだが、皆さんが目をかけてくれるのでとてもありがたい」と話します。同年代の生産者仲間も多く、毎月の定例会や勉強会では積極的に部会員と交流しています。

「先輩たちは質の高いシキミを作っている。農業収入を伸ばすには良いものをたくさん作る事が大切。自分も負けないように良いシキミを作っていきたい」と力強く語りました。



### 富士の根付きシキミ

富士市の大淵・今宮地区を中心に栽培されている「富士の根付きシキミ」は、根が付いているため日持ちが良く、緑が濃くて艶があり、ボリューム感のある美しい樹姿が特徴です。年間を通して全国から需要があり、年間約40万本がJAを通じて出荷されています。

### 営農アドバイザーから

大淵営農経済センター

すぎやま ゆういち  
杉山 雄一

川島さんは普段は物静かな方ですが、シキミ栽培にかける思いは熱く、いつも熱心に他の生産者の方々と情報交換しています。

シキミ業界でも生産者の高齢化や後継者不足が不安視されています。川島さんのような新規就農者のために、当JAは生産者と一丸となり、営農指導の強化や部会運営などの支援に取り組んでいきます。

